



玉井 直 (たまい・すなお) 氏
静岡県立静岡がんセンター病院長
1975年京都大学医学部卒、麻酔科専攻。同大付属病院講師、国立療養所宇野病院院長を経て、2000年静岡県立がんセンター開設準備室。02年静岡がんセンター麻酔科部長。07年同センター副院長、11年1月病院長就任。現在も麻酔科部長を兼任。

がんを上手に治す

1981年に「がん」が日本人の死因第1位になりました。国は84年に「対がん10カ年総合戦略」を策定。同戦略が第二次を迎えたころ、県内でがんセンター設立構想が持ち上がりまし

がん治療の発展

がんセンター10年目を振り返って

開院当初からの基本理念は「患者さんの視点を重視

する」ことを皆さんにお約束して、10年間診療を続けています。具体的には医療従事者や、患者さんに関わるすべてのスタッフが患者さんを囲む「チーム医療」体制を実践しています。

よって、手術療法、放射線療法、薬物療法(化学療法)などがあります。また、これらを組み合わせる集学的治療や、がん治療の副作用対策と症状緩和を目指す支持療法も行われます。

手術では当院が全国一の症例数です。医師が画像を見ながらロボットアームをコントロールすると、神経が入り組んでいる場所でも細かく正確な動きが可能なので、難易度が高い手術が行えます。

でなく、患者さんの視点に立つてどう治したいかを一緒に考え治療法を選択、提示しています。
新しいがん治療を求めて
放射線治療は、手術ができない部分や手術をすると食事や発声に障害が起きる場合や、手術の前がんを小さくしたり手術の効果を上げたりするために、当院では皮膚症が少なく、効率よく

ることがわかっており、その働きを抑える薬物が使われます。また、がんの発生、増殖の仕組みが解明されるにつれ、最近ではがん増殖のきっかけになるたんぱく質を狙い撃ちする「分子標的薬」の研究が進み、治療に使えるようになりまし

「患者さん」の視点を重視する」です。その上で、「がんを上手に治す」「患者さん、ご家族を徹底して支援する」「成長と進化を継続

め、開院当初から、院内に「よろず相談」という窓口を設置し、対面や電話での相談を受けています。この試みが評価され、先ごろ日本対がん協会から特別賞をいただきました。昨年度は県内外から約1万2千件の相談が寄せられました。

の手術は腹部に開けた小さな穴から腹腔鏡を差し込み行うため、傷も小さく患者さんへの負担が低い特長があります。

が増え、全体の6割ほどです。しかし昨年からの数が減少しました。理由は、無理な乳房温存手術で乳房の形が悪くなるよりも、形成外科医により乳房再建を行った方が、心理面を含めた術後の患者さんの満足度が高くなるためです。

治療を行っています。抗がん剤はがん細胞を殺す作用がありますが、正常な細胞にも障害を与え、副作用が強く、その対策が重要です。一部のがんでは、ホルモンに依存して増殖す

最新の治療法は医療保険の適用外のものもありますが、当院ではこれらの治療を通して科学的なデータを積み重ね、安全で高い効果が期待できる新しい標準的な治療法の研究にも積極的に取り組んでいます。

がんを正しく恐れよう
~最新の治療とケア~

〈企画・制作/静岡新聞社企画事業局〉

静岡県立静岡がんセンター公開講座第9弾「がんを正しく恐れよう~最新の治療とケア~」(静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、県立がんセンター共催、スルガ銀行特別協賛、三島市、同市教育委員会後援)の第1回が9月22日、三島市民文化会館で開かれ、玉井 直病院長と小野裕之副院長が「がん治療の発展~がんセンター10年目を振り返って~」「胃がんの内視鏡治療~ITナイフ開発者の立場から~」をテーマに講演しました。その概要をお伝えします。

適切な治療法を選択

がんの治療はその目的に

く、わが国では一般的な胃がんの内視鏡治療も、外国ではほとんど行われていません。海外では大半の胃がんが、治療ができない段階でしか見つけることができないからです。

最近、胃がんが減っているという統計結果が見られますが、これは統計上、高齢化など年齢構成の変化の影響を取り除く「年齢調整」をしているからで、実数は

増えていることを認識してください。特に60代から70代が高発年齢なので、40代を過ぎてからは定期的な検診が必要です。

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

胃がんの内視鏡治療

ITナイフ開発者の立場から

静岡県立静岡がんセンター副院長兼内視鏡科部長 小野裕之氏

以下となっています。わが国では胃がんの半分以上が治るといふことです。これは早期発見と関わりが深

以下となっています。わが国では胃がんの半分以上が治るといふことです。これは早期発見と関わりが深

以下となっています。わが国では胃がんの半分以上が治るといふことです。これは早期発見と関わりが深

以下となっています。わが国では胃がんの半分以上が治るといふことです。これは早期発見と関わりが深

以下となっています。わが国では胃がんの半分以上が治るといふことです。これは早期発見と関わりが深



小野 裕之 (おの・ひろゆき) 氏
静岡県立がんセンター副院長兼内視鏡科部長
1987年札幌医科大学、同大第4内科科学講座入局91年より国立がんセンター(現国立がん研究センター)中央病院研修医、レジデント、チーフレジデントを経て97年同院内視鏡科部長。2002年静岡がんセンター内視鏡科部長。12年より副院長兼務。上海复旦大名堂教授。日本消化器内視鏡学会指導医。日本胃癌学会理事、同学会胃癌治療ガイドライン委員など。

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

早期胃がんは特有の症状がありません。胃痛、膨満感、訴えて受診し、胃がんが見つかるケースもありま

質疑応答

事前や当日寄せられた質問を中心に質疑応答が行われました。紙面の都合により、本講座の内容に即した質問事項をまとめました。

Q がんとは何ですか。
玉井 体内のすべての細胞はそれぞれの目的に沿って細胞分裂して特定の臓器になりますが、目的なく無秩序に増殖するのが、がん細胞です。この増殖が正常な臓器に悪影響を与えてしまい、最後は命を奪うことにもなります。

Q 胃の手術後の抗がん剤治療による副作用が強い。術後の抗がん剤治療は再発率を下げる効果がありますが、がんの種類により使用する抗がん剤が決まっています。現在の抗がん剤で副作用がひどい場合は主治医に相談し量を減らすほか、一度投薬を休んだり、副作用の種類によっては、それを抑える薬もありますので使ってみることをお勧めします。

Q 抗がん剤治療方針についてのセカンドオピニオンは、主治医の紹介状があれば当院で提供可能です。よろず相談に電話をいただければ手順などを説明します。

一括で切除できるので治療の成績も高まっています。胃の粘膜下層を剥がすように切り取るこの技術を使っ

て、現在では条件を整えれば、直径12cmものがんも切除が可能になりました。

昨年の当院での内視鏡治療数は、東京のがん研有明病院に次いで全国2位です。

がん予防の近道はありません。がんのリスクを高める主な要因は、喫煙、肥満、飲酒で、リスクを低くするために野菜や果物を食べ、適度に運動することが有効です。

胃がんをはじめ、多くのがんが早期に発見すれば治る病気になっています。定期的な検診を習慣づけて、がんを発見したら、適切な治療を受けましょう。